

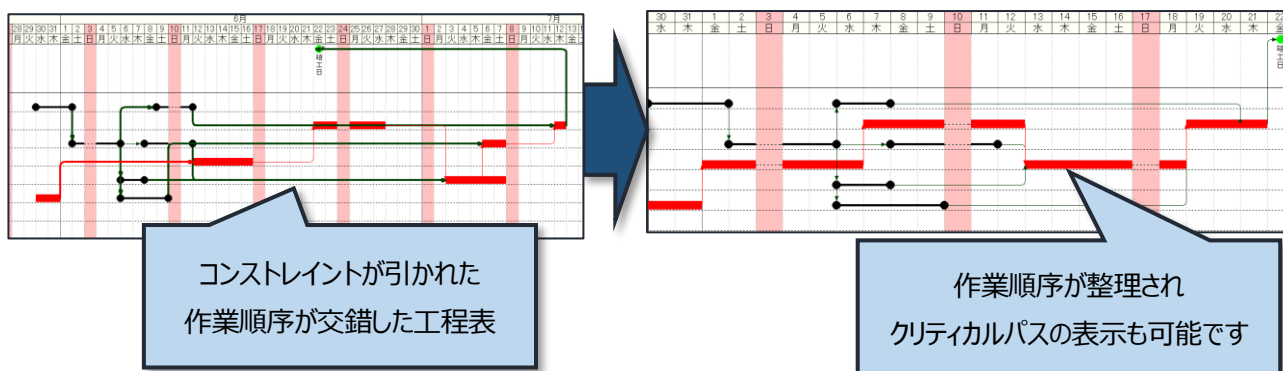
「日程計算」と併せて使いたい機能

工程's をサクサク使いこなすための**基本操作**や、知っていると役立つ**ちょっとした小技**をメールマガジン形式でご紹介します。

第 23 回の今回は、「**日程計算**」機能をより有効活用するための**便利な機能**をお教えます。

●「日程計算」機能とは

「日程計算」とは、現在日を基準として、各作業の期間、コンストレイント、およびカレンダーを考慮しながら作業バーを再配置する機能です。現在日から作業を開始した場合、最短でいつ計画が終了するのか、リードタイムを把握することができます。



詳しくは、メールマガジン Vol13.「日程計算の実行、及びクリティカルパスの表示」をご参照ください

⇒<https://kajima-kouteizu.info/contents/magazinepdf/k-mailmagaVol.13.pdf>

1. 作業バーを「日程計算」で移動させない

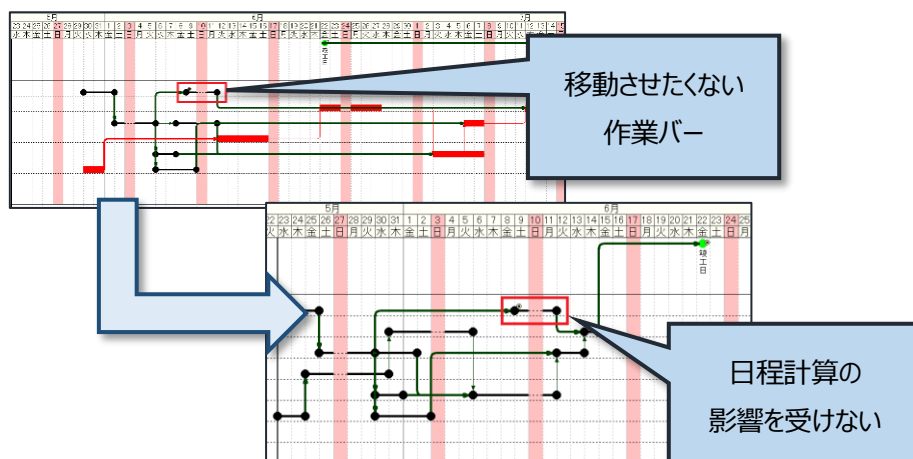
「日程計算」を行うと、全ての作業が前詰め再配置されますが、この機能を使用することで、前に影響する作業がなくても**特定の日からしかスタートできない**（例えば業者の入り日時より以前に作業は開始できない）制限がある作業バーを、**日程計算をしても前後に移動させない**ことができます。

作業バーをダブルクリックしてバー情報を開き、「バーを移動しない」にチェックを入れて、「OK」をクリックします。「バーを移動しない」にチェックが入った作業バーは、の右上に「◎」が表示されます。

（[表示]>[日程計算で移動しないバーのマーク表示]で表示/非表示を変更できます。）



バー情報ダイアログボックスの「バーを移動しない」チェックボックスが選択されている状態です。



2. 作業バーを後ろ詰めで日程計算する

「日程計算」機能は、前詰め（フォワード計算）で日程の再配置をしますが、この機能を使って日程計算することで、「ある特定の期日に間に合わせるためには、遅くとも〇日に始めればよい」という後ろ詰め（バックワード計算）の日程の再配置が可能です。

作業バーをダブルクリックしてバー情報を開き(※)、「後続作業に影響しない範囲で遅く開始する」にチェックを入れて、「OK」をクリックします。

※工程表全体に反映させる場合は[Ctrl]+[A]で作業バーを全選択し、右クリックメニューから「プロパティ」を選択してください。

全ての作業バーに
「後続作業に影響しない範囲
で遅く開始する」を反映させる

遅くとも 30 日までに
開始すれば竣工日に
間に合う

3. コンストレイントの作業間隔を調整する

作業バー同士をつなぐコンストレイントに、「〇日の間隔を空ける」という制限を設定することができます。これにより、例えば「コンクリート打設をしてから 3 日間養生させてから次の作業が始められる」とような表現が可能です。

コンストレイントをダブルクリックし、プロパティ画面を開きます。

[作業間隔]に数値を登録することで、作業バー同士の間隔を設定することができます。

※[作業間隔]は「マイナスの値」も入力可能です。例えば作業バーA,Bの間に「-2」の間隔を設定したコンストレイントを登録することで、「Aの作業が終わる 2 日前に B の作業をスタートさせる」という表現が可能です。

このコンストレイントには
5 日間の作業間隔を
設定する

作業間隔を考慮した
再計算を行う

※コンストレイントには「カレンダーを設定することも可能」です。やや高度にはなりますが、「日曜日に作業が入ることはないが、〇日の期間を空ける際は日曜日でもカウントに入れて計算をしたい」という場合に活用ができます。